

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 商工労働課 商工労働係 事務事業番号 124040105

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)			
	4	産業・観光	24	多様な働く場の確保	4	就業対策の促進		
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
1	就業対策推進事業		5	「さんようおのだ就職フェア」・「山陽小野田市合同就職面接会」開催事業				政策的
事業概要	市・ハローワーク・商工会議所が連携して、本市独自の「就職フェア」及び「就職面接会」を開催する。地元にて特化した就職説明会とすることで、地元企業の雇用確保を支援し、また、若者の地元定着を目指す。 令和2年度 ミニ面接会:2月17日開催					対象	市内企業及び一般求職者	
						手段	「就職フェア」又は「就職面接会」の開催	
						意図	本市企業のPRや人材確保、求職者の市内就業を支援する。	

事業期間	H29以前	年度	～	R7以降	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)			
	印刷製本費	37千円				印刷製本費			印刷製本費	41千円
	手数料	30千円	手数料	30千円	手数料			手数料	30千円	
									消耗品費	20千円
	合計	67千円		30千円				91千円		
財源内訳/割合	国庫支出金								1/2	45千円
	県支出金									
	地方債									
	その他									
	一般財源	67千円		30千円						46千円
合計	67千円		30千円				91千円			
人工数	0.35人	2,022千円	0.19人	1,097千円	0.03人	174千円				
総経費	2,089千円		1,127千円							

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	参加事業所数 (就職フェア及び面接会合計)	活動	70事業所	40事業所	5事業所	40事業所
			58事業所	25事業所	2事業所	
			82.8%	62.5%	40%	
2	参加者数	成果	200名	200名	10名	200名
			110名	44名	6名	
			55%	22%	60%	
3						

成果	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、就職フェア・面接会の開催が困難であった。1回のみで開催となったミニ面接会については、参加事業者が2事業者と想定より少なかったものの、参加者数は6名おられたので、コロナ禍とはいえ、今後も定期的に就職につながる事業を実施していく。				
R4年度に向けた課題及び改善策	今後の新型コロナウイルス感染症の状況及び雇用情勢を注視し、ハローワーク等関係機関とも連携を図り、実施内容を検討する。				
目標達成度	C	R4年度に向けた方向性			
		成果	拡充	コスト	現状維持
特記事項	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、就職フェアは中止。				

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 商工労働課 商工労働係 事務事業番号 124040107

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	24	多様な働く場の確保	4	就業対策の促進	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
1	就業対策推進事業	7	雇用開発支援事業 (サポート事業)				義務的
事業概要	平成27年度から国の施策として、シルバー人材センターが人手不足分野や育児、介護等の現役世代を支える分野での高齢者の就業を促進する人材派遣事業を実施している。高齢者の新たな働く場の創出のため実施される当該事業へ補助金を交付し、高齢者の活躍の場の拡大を目指している。				対象	山陽小野田市シルバー人材センター	
					手段	補助金の交付	
					意図	センターの経営基盤安定による高齢者の就業機会確保、拡大	

事業期間	H29以前	年度	～	R7以降	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般	
	H30(決算額)			R1(決算額)			R2(決算額)		R3(予算額)		
支出内訳	高齢者就業機会確保事業費補助金	2,900千円		高齢者就業機会確保事業費補助金	3,100千円		高齢者就業機会確保事業費補助金	3,300千円	高齢者就業機会確保事業費補助金	3,300千円	
	合計	2,900千円		3,100千円		3,300千円		3,300千円		3,300千円	
財源内訳 / 割合	国庫支出金										
	県支出金										
	地方債										
	その他										
	一般財源	2,900千円		3,100千円		3,300千円		3,300千円		3,300千円	
合計	2,900千円		3,100千円		3,300千円		3,300千円		3,300千円		
人工数	0.05人		289千円		0.01人		58千円		0.01人		58千円
総経費	3,189千円		3,158千円		3,358千円						

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	シルバー人材センター会員数	活動	できるだけ多く	できるだけ多く	できるだけ多く	できるだけ多く
			474人	504人	455人	
			-	-	-	
2	派遣事業受注件数	成果	できるだけ多く	できるだけ多く	できるだけ多く	できるだけ多く
			60件	69件	80件	
			-	-	-	
3	派遣事業就業延人員	成果	できるだけ多く	できるだけ多く	できるだけ多く	できるだけ多く
			5,318人	7671人	5623人	
			-	-	-	

成果	派遣事業については、受注件数は毎年伸びているものの、就業延人員は令和元年度と比較すると新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な減少となった。				
R4年度に向けた課題及び改善策	高齢者の就業機会確保や生涯現役社会実現の一助となるよう今後も支援に努めていく。				
目標達成度	C	R4年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 商工労働課 商工労働係 事務事業番号 125010108

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)			
	4	産業・観光	25	中小企業の振興	1	中小企業の支援		
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
1	中小企業経営支援事業		8	新型コロナウイルス感染症に関する中小企業等支援事業				政策的
事業概要	新型コロナウイルス感染症に関する中小企業、小規模事業者支援を次のとおり実施する。 ①新型コロナウイルスに係る経営相談、国の補助金などに関する相談窓口やセミナー等を実施する。 ②山陽小野田市、小野田商工会議所、山陽商工会議所が連携してテイクアウト・デリバリーを行う市内のお店を紹介するサイト(スマイルさんようおのだエール飯)を立ち上げる。				対象	商工会議所		
					手段	中小企業相談所補助金の交付		
					意図	市内中小企業、小規模事業者支援		

事業期間	R2 年度	～	R3 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
支出内訳					中小企業相談所補助金(予備費)	2,129千円	中小企業相談所補助金	1,410千円
	合計					2,129千円		1,410千円
財源内訳 / 割合	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源					2,129千円		1,410千円
合計					2,129千円		1,410千円	
人工数					0.22人	1,276千円		
総経費						3,405千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	相談会、セミナー出席者数	活動			90人 95人 105.5%	130人
2	サイト登録店舗数	活動			50店舗 53店舗 106%	60店舗
3						

成果	新型コロナウイルス感染症の影響に伴う経営相談、国や県、市の様々な給付金等の紹介のために、事業者向けの相談会、セミナー等を実施したところ、多くの事業者から支援制度の整理ができた、初めてそのような制度があることを知った等好評であった。また「エール飯」の立ち上げにより、テイクアウトの店舗を紹介でき、飲食店の売上確保につながった。					
R4年度に向けた課題及び改善策						
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性				
		成果	完了	コスト	R3	
特記事項						

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 商工労働課 商工労働係 事務事業番号 125010110

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	25	中小企業の振興	1	中小企業の支援	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	1	中小企業経営支援事業	10	山陽小野田市事業継続給付金事業			政策的
	新型コロナウイルス感染症拡大により、大きな影響を受けている事業者に対して、事業の継続を支え、再起の糧となるよう、事業全般に広く使える資金として給付金を支給する。				対象	市内に事業所を有する中小企業者もしくは個人事業主、又は市内に住民登録のある個人事業主	
					手段	事業全般に広く使える資金として事業継続給付金(1事業者当たり20万円)を支給	
				意図	感染症拡大により影響が出ている事業者に対して、事業継続を支え、再起の糧としていただくため		

事業期間	R2 年度	～	R2 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
支出内訳					消耗品費	65千円		
					印刷製本費	17千円		
					通信運搬費	78千円		
					広告料	99千円		
					手数料	129千円		
					事業継続給付金費	235,000千円		
					その他(給料、時間外等)	1,057千円		
合計						236,445千円		
財源内訳 / 割合	国庫支出金				10/10	235,000千円		
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源					1,445千円		
合計						236,445千円		
人工数	人件費				1.25人	5,485千円		
総経費						241,930千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	給付金支給事業者数	活動			2300事業者 1175事業所 51.1%	
2						
3						

成果	本給付金は、用途を限定しているものではなく、新型コロナウイルス感染症の影響のあった市内の事業者に対して幅広く支給することができたので、事業継続支援につながったと考えている。					
R4年度に向けた課題及び改善策						
目標達成度	B	R4年度に向けた方向性				
		成果	完了	コスト	R2	
特記事項						

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 商工労働課 企業立地推進室 事務事業番号 126010103

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)			
	4	産業・観光	26	工業の振興	1	企業誘致の推進		
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
1	企業誘致推進事業		3	工場設置奨励条例(新規企業誘致、内発促進)				政策的
事業概要	厳しい都市間競争の中で企業誘致を進めるため、工場設置奨励条例による優遇措置(工場設置奨励金、雇用奨励金、用地取得奨励金、従業員住宅新設奨励金)を特典とし、企業誘致活動を展開する。				対象	(市内、市外)企業		
					手段	企業からの申請に基づいて交付する		
					意図	企業誘致の推進		

事業期間	H29以前	年度	～	R7以降	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)			
	工場設置奨励金	6,850千円	工場設置奨励金	99,198千円	工場設置奨励金	101,783千円	工場設置奨励金	82,971千円		
	雇用奨励金		雇用奨励金	400千円	雇用奨励金	1,200千円	雇用奨励金	5,400千円		
	用地取得奨励金		用地取得奨励金	53,608千円	用地取得奨励金	447,332千円	従業員住宅新設奨励金	148千円		
	従業員住宅新設奨励金									
合計	6,850千円		153,206千円		550,315千円		88,519千円			
財源内訳/割合	国庫支出金									
	県支出金									
	地方債									
	その他									
	一般財源	6,850千円		153,206千円		550,315千円		88,519千円		
合計	6,850千円		153,206千円		550,315千円		88,519千円			
人工数	0.15人		0.15人		0.20人					
人件費	867千円		866千円		1,160千円					
総経費	7,717千円		154,072千円		551,475千円					

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	奨励金交付件数	活動	できるだけ多く 6件	できるだけ多く 8件	できるだけ多く 11件	できるだけ多く
2						
3						

成果	近年順調に分譲が進んでいることによる企業団地進出に係る各種奨励金の交付及び既存企業の設備投資に係る奨励金交付も一定数あり、企業進出及び設備投資の後押しとなっていると思われる。				
R4年度に向けた課題及び改善策	近年企業団地への進出が続いており、引き続き早期完売に向けて、当該優遇制度を積極的にPRし、更に県と協調して企業誘致を進める必要がある。なお、団地完売後を見据え、当該条例の内容変更についても検討していく必要がある。				
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性			
		成果	拡充	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 商工労働課 企業立地推進室 事務事業番号 126020102

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)			
	4	産業・観光	26	工業の振興	2	立地基盤の整備		
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
1	立地基盤整備事業	2	土地開発公社利子補給事業				義務的	
事業概要	小野田・楠企業団地造成事業の4割を山陽小野田市土地開発公社が金融機関からの借入により負担しており、市は協定に基づき毎年発生する借入利息を補給している。				対象	山陽小野田市土地開発公社		
					手段	山陽小野田市土地開発公社が金融機関に支払う利子を市が負担する。		
					意図	土地開発公社の負担軽減		

事業期間	H29以前	年度	～	R7以降	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)			
	土地開発公社利子補給金	908千円	土地開発公社利子補給金	729千円	土地開発公社利子補給金	667千円	土地開発公社利子補給金	860千円		
	合計	908千円		729千円		667千円		860千円		
財源内訳 / 割合	国庫支出金									
	県支出金									
	地方債									
	その他									
	一般財源	908千円		729千円		667千円		860千円		
合計	908千円		729千円		667千円		860千円			
人工数	0.05人	289千円	0.01人	58千円	0.01人	58千円				
総経費		1,197千円		787千円		725千円				

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	利子補給額	活動	908千円	729千円	667千円	860千円
			908千円	729千円	667千円	
			100%	100%	100%	
2						
3						

成果	滞りなく事務を行った。				
R4年度に向けた課題及び改善策	利子削減のため、今後も積極的に企業誘致を行う。				
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 商工労働課 商工労働係 事務事業番号 127010102

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)			
	4	産業・観光	27	商業の振興	1	商業振興支援の充実		
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
1	既存商店街振興事業		2	空き店舗等利活用支援事業				政策的
事業概要	市内の指定地区において、空き店舗を活用して事業をする者(既存事業者、新規起業者等)に対して、当該店舗において事業を開始するための「リニューアルの費用」の一部を補助する。(補助金上限額:1/2以内、50万円 1事業者1回のみ申請可能)				対象	空き店舗を改修し、事業を始める者		
					手段	店舗等のリニューアルに対する補助を行う		
					意図	事業者に対して、事業開始時の負担軽減を図る。商業振興、地域経済の増進		

事業期間	R2 年度	～	R7以降 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
支出内訳					空き店舗等リニューアル補助金	500千円	空き店舗等リニューアル補助金	1,000千円
	合計					500千円		1,000千円
財源内訳 / 割合	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他						ふるさと支援基金	1,000千円
	一般財源					500千円		
合計					500千円		1,000千円	
人工数					0.02人	116千円		
総経費						616千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	補助事業利用者	活動			2件 1件 50%	2件
2						
3						

成果	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により出店を控える事業者があったため、補助事業利用者は1件のみであった。				
R4年度に向けた課題及び改善策	今後のコロナの状況を注視しつつ、事業者の出店予定等、商工会議所等とも意見交換しながら事業を拡大するかどうか検討する。				
目標達成度	C	R4年度に向けた方向性			
		成果	拡充	コスト	拡大
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 商工労働課 商工労働係 事務事業番号 127010206

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	27	商業の振興	1	商業振興支援の充実	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	2	商業振興支援事業	6	創業応援金交付事業	1-(3)		政策的
	「山陽小野田市創業支援事業計画」に基づく特定創業支援事業を受けた事業者に対し、支援のための助成金を交付する。創業後、1年経過したことを交付要件とし、1年度につき10万円、3年間交付する。				対象	特定創業支援事業証明を受けた創業者	
					手段	補助金の交付	
				意図	創業者に対し補助金を交付することで、創業当初の運営負担を軽減する。		

事業期間	H30 年度	～	R7以降 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
			創業応援事業補助金	200千円	創業応援事業補助金	700千円	創業応援事業補助金	1,100千円
	合計			200千円		700千円		1,100千円
財源内訳/割合	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他			ふるさと支援基金	200千円		ふるさと支援基金	1,100千円
	一般財源					700千円		
合計			200千円		700千円		1,100千円	
人工数	0.05人		0.04人	231千円	0.02人	116千円		
人件費	289千円							
総経費			431千円		816千円			

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	補助金交付件数	活動	2件	7件	10件	11件
			0件	2件	7件	
			0%	28.5%	70%	
2						
3						

成果	市の創業支援事業計画に基づく支援を受けて創業する方や創業に向けて支援を受けている方は増加しており、令和2年度は7件の交付となった。本事業は、本市で創業するインセンティブとなっている。				
R4年度に向けた課題及び改善策	市の創業支援事業計画に基づく支援を受けて創業する方や創業に向けて支援を受けている方は増加傾向にあるため、今後も事業を拡大していく。				
目標達成度	C	R4年度に向けた方向性			
		成果	拡充	コスト	拡大
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 商工労働課 商工労働係 事務事業番号 127010207

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	27	商業の振興	1	商業振興支援の充実	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
2	商業振興支援事業	7	創業支援事業(個別相談会、支援セミナー等実施事業)		1-(3)		政策的
事業概要	平成28年4月に策定した「山陽小野田市創業支援事業計画」に基づき、創業を希望する方への個別相談、会計処理相談などの各種相談会、創業セミナー等を実施する。また、創業された方に対しても、フォロー体制を整え、事業経営をブラッシュアップする。商工会議所への委託事業とし、実施事業は市の創業支援事業計画に基づく「特定創業支援事業」と位置づける。				対象	市内で創業を希望する方、創業された方	
					手段	相談会、セミナー等の実施	
					意図	市内での創業を支援し、市の商業振興を目的とする。	

事業期間	H29以前	年度	～	R7以降	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般	
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)				
支出内訳	創業支援業務委託料	995千円	創業支援業務委託料	1,593千円	創業支援業務委託料	1,739千円	創業支援業務委託料	2,000千円			
	普通旅費	28千円									
	合計	1,023千円		1,593千円		1,739千円		2,000千円			
	財源内訳/割合	国庫支出金									
	県支出金										
地方債											
その他	ふるさと支援基金	995千円	ふるさと支援基金	1,593千円			ふるさと支援基金	2,000千円			
一般財源		28千円				1,739千円					
合計		1,023千円		1,593千円		1,739千円		2,000千円			
人工数	0.15人	867千円	0.13人	751千円	0.02人	116千円					
総経費		1,890千円		2,344千円		1,855千円					

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	創業相談件数(創業支援等事業計画に基づく支援実施者)	活動	100件	100件	100件	100件
			92件	94件	117件	
			92%	94%	117%	
2	創業者(創業支援等事業計画に基づく支援実施者)	成果	15人	15人	15人	25人
			26人	18人	18人	
			173.3%	120%	120%	
3	短期の集中セミナー(起業塾)参加者	活動		10人	10人	10人
				13人	16人	
				130%	160%	

成果	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響の中で創業間もない方や新事業展開を余儀なくされた方の相談が増加しており、創業後のアフターフォローとしても有効であった。				
R4年度に向けた課題及び改善策	今後も引き続き、コロナ禍で必要な支援等、創業間もない方や創業希望者のニーズに沿った支援を実施していく。				
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性			
		成果	拡充	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 商工労働課 企業立地推進室 事務事業番号 127010208

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	27	商業の振興	1	商業振興支援の充実	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	2	商業振興支援事業	8	山口東京理科大学学生定住促進事業	1-(2)		政策的
	山口東京理科大学には市内からの進学はもとより市外、県外から多くの学生が入学してくることから、本市の住民基本台帳に登録されている山口東京理科大学の学生に対して、インセンティブとして「住まいる奨励金」を支給し、本市への定住を促進させるとともに商業振興を図る。交付業務は公立大学法人山口東京理科大学に委託する。				対象	山陽小野田市の住民基本台帳に登録している学生	
					手段	市内の協力店で買い物をした学生に1人当たり最大3万円を「住まいる奨励金」として交付する	
				意図	若者の定住人口の確保及び商業振興		

事業期間	H30	年度	～	R7以降	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)			
	市内定住促進業務委託料	6,034千円	市内定住促進業務委託料	4,464千円	市内定住促進業務委託料	2,412千円	市内定住促進業務委託料	9,119千円		
			消耗品費	6千円	消耗品費		消耗品費	20千円		
			印刷製本費	174千円	印刷製本費	117千円	印刷製本費	182千円		
	合計	6,034千円		4,644千円		2,529千円		9,321千円		
財源内訳/割合	国庫支出金									
	県支出金									
	地方債									
	その他									
	一般財源	6,034千円		4,644千円		2,529千円		9,321千円		
合計	6,034千円		4,644千円		2,529千円		9,321千円			
人工数	0.25人	1,444千円	0.06人	347千円	0.03人	174千円				
総経費	7,478千円		4,991千円		2,703千円					

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	入学時に山陽小野田市の住民基本台帳に登録している学生(1年生)の割合	成果	65%	70%	75%	75%
			27.5%	50.9%	38.9%	
			42.3%	72.7%	51.8%	
2						
3						

成果	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大学がリモート授業を実施したこともあり、本市住民基本台帳に登録した1年生は昨年度と比較すると大幅減となった。				
R4年度に向けた課題及び改善策	学生が利用しやすいような制度を検討していく必要がある。				
目標達成度	C	R4年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 商工労働課 商工労働係 事務事業番号 127010209

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	27	商業の振興	1	商業振興支援の充実	
	実施計画名		事務事業名		重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
事業概要	2	商業振興支援事業	9	ガラスのブランド化推進事業	1-(3)		政策的
	本市では、公設ガラス工房「きららガラス未来館」の活用や全国規模の現代ガラス展を開催するなどガラスによるまちづくりに取り組んでいる。当該施設は、指定管理により小野田ガラス㈱が運営しており、この会社には、全国的な知名度がある西川 慎氏、池本美和氏のほか、4人の若手作家が在籍し、自身のガラス作家活動をしながら体験学習の指導等に從事している。小野田ガラス㈱と協力し、ガラス作品をブランド化し、統一的なブランドの下で商品力の高いガラス作品を創り出すとともに、市のガラス文化の知名度アップを図る。				対象	市内で製造されるガラス作品	
					手段	ガラス作品のブランド化	
				意図	ガラスのブランド化による特産品の開発、市のガラス文化の知名度の向上を図る。		

事業期間	R2 年度	～	R4 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
支出内訳					ブランド化推進事業委託料	11,833千円	ブランド化推進事業委託料	20,000千円
					報償金	248千円	報償金	248千円
	合計						12,081千円	20,248千円
財源内訳 / 割合	国庫支出金				1/2	6,040千円	1/2	10,024千円
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源					6,041千円		10,224千円
合計						12,081千円	20,248千円	
人工数					0.80人	4,639千円		
総経費						16,720千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	ガラスのブランド化の実施	活動			ブランド戦略立案 ブランド戦略立案 100%	ブランドの構築
2						
3						

成果	令和2年度はガラスのブランド化の実現に向けて、ブランドのコンセプト、ターゲット等のブランド戦略、販売計画を策定した。				
R4年度に向けた課題及び改善策					
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 商工労働課 商工労働係 事務事業番号 127010213

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	27	商業の振興	1	商業振興支援の充実	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	2	商業振興支援事業	13	商品券(スマイルチケット)発行事業	1-(3)		政策的
	新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、市民生活を支援するとともに、地域における消費を喚起するため、市民等に商品券を配付する。市民等は、配付された商品券をあらかじめ登録している取扱店で使用する。取扱店は、市内金融機関に使用済みの商品券を持参し換金する。 ■商品券(愛称 スマイルチケット) 発行額面 500円※市民1人につき5,000円分の商品券(500円×10枚)を配付 ① 専用券 市内の飲食店、小規模事業者、タクシー事業者のみ ② 共通券 商品券取扱店全店舗				対象	本市住民基本台帳に登録された市民等(約63000人)、商品券取扱店	
					手段	市民等は、配付された商品券を取扱店で使用する。取扱店は、市内金融機関に使用済みの商品券を持参し換金する。	
					意図	市民生活の支援及び地域の消費喚起	

事業期間	R2 年度	～	R3 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
支出内訳					印刷製本費	7,927千円	印刷製本費	9,746千円
					通信運搬費	8,762千円	通信運搬費	16,217千円
					手数料	6,681千円	手数料	9,600千円
					コールセンター業務委託料	3,696千円	コールセンター業務委託料	4,600千円
					帳票類印刷・封入等委託料	5,187千円	帳票類印刷・封入等委託料	5,000千円
					商品券発行事業負担金	303,742千円	商品券発行事業負担金	322,000千円
					その他(人件、役務、委託等)	3,783千円	その他(人件、役務、委託等)	6,290千円
合計						339,778千円		373,453千円
財源内訳/割合	国庫支出金				10/10	339,000千円	10/10	273,253千円
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源						778千円	100,200千円
合計						339,778千円		373,453千円
人工数	人件費				1.75人	8,384千円		
総経費						348,162千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	商品券配付数	活動			- 625,870枚 -	-
2	商品券使用数	成果			625,870枚 607,484枚 97%	R3配付数
3	取扱店舗数	活動			300店舗 546店舗 1.82	550店舗

成果	商品券の換金状況から、コロナの影響を受けている飲食店や小規模事業者の店舗で45%近くが使用されており、専用券を設けたことによる効果が見ることができる。また事業者アンケートでは実施したことに対して好評であり、再度の商品券実施の要望もあった。					
R4年度に向けた課題及び改善策						
目標達成度	B	R4年度に向けた方向性				
	成果	完了	コスト	R3		
特記事項						

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 農林水産課 農林係 事務事業番号 128010107

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	28	農業の振興	1	農業経営体の育成・強化	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	1	農業生産者支援事業	7	農地中間管理機構事業			政策的
	農業従事者の高齢化が急速に進展する中、持続可能な農業の実現のため、農地中間管理機構を活用し、担い手への農地集積と集約化を図る。				対象	担い手農業従事者	
					手段	農地の中間受け皿として県農地中間管理機構が整備され、担い手への農地集積と集約化を行う。	
					意図	担い手への農地集積の促進・農地の集約化の加速化	

事業期間	H29以前	年度	～	R7以降	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般	
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)				
	農地中間管理事業補助金	270千円	農地中間管理事業補助金	39千円	農地中間管理事業補助金		農地中間管理事業補助金	450千円			
	合計	270千円	合計	39千円	合計		合計	450千円			
	国庫支出金		県支出金	10/10	270千円	10/10	39千円		10/10	450千円	
	地方債		その他								
財源内訳/割合	合計		270千円	合計		39千円	合計		450千円		
人工数	1.00人	5,778千円	0.15人	866千円	0.01人	58千円					
総経費	6,048千円		905千円								

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標		H30	R1	R2	R3
1	機構への農地集積	15.0ha	15.0ha	15.0ha	15.0ha
		5.1ha	0.4ha	0ha	
		34%	2.7%	0%	
2					
3					

成果	まとまった土地の機構への農地集積がなかった。				
R4年度に向けた課題及び改善策	積極的な農地集積が必要				
目標達成度	D	R4年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 農林水産課 農林係 事務事業番号 128010108

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	28	農業の振興	1	農業経営体の育成・強化	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
1	農業生産者支援事業	8	担い手支援事業				政策的
事業概要	担い手の育成・確保を図るため経営発展を目指す認定農業者等の担い手の農業用機械・施設の導入経費の一部を支援する。 ○補助対象 農産物の生産、農業経営の開始または改善に必要な機械(10万円以上)・施設の取得 ○補助金額 認定農業者:事業費の1/2 上限機械50万円・施設100万円(5年間の認定期間中に1回限り)				対象	認定農業者(令和2年8月11現在56名)	
					手段	機械・施設の整備に要した経費の1/2を補助する。	
					意図	担い手の確保・育成	

事業期間	R2 年度	～	R7以降 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
支出内訳					担い手支援事業補助金	1,236千円	担い手支援事業補助金	5,000千円
	合計					1,236千円		5,000千円
財源内訳 / 割合	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他						ふるさと支援基金	5,000千円
	一般財源					1,236千円		
合計					1,236千円		5,000千円	
人工数					0.01人	58千円		
総経費						1,294千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	交付決定数	成果			10件 3件 30%	10件
2	認定農業者数	活動	52人 52人 100%	53人 52人 98.1%	54人 56人 104%	56人
3						

成果	要望数に対して予算が少なかったため、成果をあげることができなかった。				
R4年度に向けた課題及び改善策	十分な予算を確保し、担い手の要望に応じていきたい。				
目標達成度	D	R4年度に向けた方向性			
		成果	拡充	コスト	拡大
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 農林水産課 農林係 事務事業番号 128010201

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)			
	4	産業・観光	28	農業の振興	1	農業経営体の育成・強化		
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
事業概要	2	新規就業者支援事業	1	農業次世代人材投資事業			政策的	
	次世代を担う農業者となることを志向する者に対し、就農直後の経営確立を支援する資金(経営開始型(5年以内))を交付する。				対象	認定新規就農者		
					手段	年間最大150万円を最長5年間交付(家族協定締結者は、225万円)		
					意図	経営の安定化並びに次世代を担う農業者の確保及び育成を図る。		

事業期間	H29以前	年度	～	R7以降	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)			
	農業次世代人材投資資金	11,438千円	農業次世代人材投資資金	11,250千円	農業次世代人材投資資金	7,500千円	農業次世代人材投資資金	6,000千円		
	合計	11,438千円		11,250千円		7,500千円		6,000千円		
財源内訳/割合	国庫支出金									
	県支出金	100%	11,438千円	100%	11,250千円	100%	7,500千円	100%	6,000千円	
	地方債									
	その他									
	一般財源									
合計		11,438千円		11,250千円		7,500千円		6,000千円		
人工数	0.50人	2,889千円	0.25人	1,444千円	0.20人	1,160千円				
総経費		14,327千円		12,694千円		8,660千円				

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	資金交付人数	成果	10人	7人	7人	5人
			5人	5人	4人	
			50%	71.4%	57.1%	
2	新規就農者数	活動	1人	1人	1人	1人
			2人	0人	0人	
			200%	0%	0%	
3						

成果	認定新規就農者の経営の安定化並びに次世代を担う農業者の育成に寄与することができた。				
R4年度に向けた課題及び改善策	令和4年度に国の新規就農支援策について大幅な改正が予定されており、令和4年度から認定新規就農者として認定された者から適用される予定。市単独事業の新規就農者支援事業と合わせてPRし、新規就農者の増加に努める。				
目標達成度	C	R4年度に向けた方向性			
		成果	拡充	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 農林水産課 農林係 事務事業番号 128010202

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)			
	4	産業・観光	28	農業の振興	1	農業経営体の育成・強化		
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
事業概要	2	新規就業者支援事業	2	新規就農・就業者定着支援事業	1-(3)		政策的	
	新規就農者を雇用又は、構成員として受け入れた法人が、国の農の雇用事業を2年間活用した後に継続して雇用等を行う場合、単県事業で最長3年間の支援を行なう。				対象	新規就農者を雇用又は、構成員として受け入れた法人		
					手段	国の農の雇用事業(120万円/年)を2年間活用後に継続して雇用する法人に対し、3年目90万円、4年目60万円、5年目30万円を給付する。		
					意図	県内外からの新規就農・就業者び確保対策を一層加速化するため、新規就農・就業者の定着支援を図る。		

事業期間	H29以前	年度	～	R7以降	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)			
		新規農業就業促進事業補助金	2,125千円	新規農業就業促進事業補助金	2,025千円	新規農業就業促進事業補助金	3,225千円	新規農業就業促進事業補助金	3,725千円	
合計		2,125千円		2,025千円		3,225千円		3,725千円		
財源内訳 / 割合	国庫支出金									
	県支出金	0.5	1,062千円	0.5	1,012千円	0.5	1,612千円	0.5	1,862千円	
	地方債									
	その他									
一般財源	0.5	1,063千円	0.5	1,013千円	0.5	1,613千円	0.5	1,863千円		
合計		2,125千円		2,025千円		3,225千円		3,725千円		
人工数	0.40人	2,311千円	0.15人	866千円	0.21人	1,218千円				
総経費		4,436千円		2,891千円		4,443千円				

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	新規就農者受入法人数	成果	2法人	2法人	2法人	3法人
			2法人	2法人	2法人	
			100%	100%	100%	
2	新規就業者数	成果	2人	2人	2人	3人
			1人	1人	2人	
			50%	50%	100%	
3						

成果	新規就農者受入法人数は例年通り2法人であり、新規就業者数も目標を達成できた。				
R4年度に向けた課題及び改善策	安定した新規就業者受入れのPR活動などが必要。				
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 農林水産課 農林係 事務事業番号 128010204

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	28	農業の振興	1	農業経営体の育成・強化	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	2	新規就業者支援事業	4	新規就業者等産地拡大促進事業	1-(3)		政策的
	市が主体となって策定する「産地パッケージ計画」に基づき、新規就業者の受入支援及び生産力の強化のための機械の導入、施設の整備にかかる経費について支援する。 【補正理由】 山口県が事業運用の方法を変更したことに伴い、(株)エスケイサービスが事業実施の要件を満たしたため、同社がパイプハウス15棟を建設する経費について支援するため。				対象	新規就業者を雇用した法人及び新規就農者を受入れた産地を管轄する農業協同組合等	
					手段	機械・施設等(コンバイン、トラクタ、パイプハウス等)の整備に対して、1/3の補助を行う。	
					意図	産地における新たな人材の確保・育成と生産拡大の取組を一体的に推進できる体制を整備する。	

事業期間	H30 年度	～	R2 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
支出内訳	新規就業者等産地拡大促進事業	4,754千円	新規就業者等産地拡大促進事業補助金	2,768千円	新規就業者等産地拡大促進事業	11,885千円		
	合計	4,754千円		2,768千円		11,885千円		
財源内訳 / 割合	国庫支出金							
	県支出金	10/10	4,754千円	10/10	2,768千円	10/10	11,885千円	
	地方債							
	その他							
	一般財源							
合計		4,754千円		2,768千円		11,885千円		
人工数 人件費	0.25人	1,444千円	0.10人	578千円	0.20人	1,160千円		
総経費		6,198千円		3,346千円		13,045千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	補助法人数	成果	2法人	2法人	2法人	
			2法人	0法人	1法人	
			100%	0%	50%	
2						
3						

成果	事業を活用し、パイプハウス15棟の建設及び自走式防除機等を導入したことにより、新規就業者を雇用するために必要な収益を確保する目途が立った。					
R4年度に向けた課題及び改善策						
目標達成度	C	R4年度に向けた方向性				
		成果	完了	コスト	R2	
特記事項						

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 農林水産課 農林係 事務事業番号 128010205

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	28	農業の振興	1	農業経営体の育成・強化	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	2	新規就業者支援事業	5	新規就農者支援事業	1-(3)		政策的
	経営の不安定な就農初期段階の新規就農者に対し、農業用機械又は施設等の整備に要する経費の一部を補助し、経営の安定化及び次世代を担う農業者を確保・育成することを目的とする。				対象	認定新規就農者(就農時18歳以上50歳未満の者で、就農後5年以内の者)	
					手段	農業用機械及び施設整備に係る経費の補助。補助率1/2、上限額 機械150万円・施設250万円	
					意図	次世代を担う農業者の確保・育成及び移住促進	

事業期間	R1 年度	～	R7以降 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
支出内訳			新規就農者支援事業補助金	1,250千円	新規就農者支援事業補助金	3,166千円	新規就農者支援事業補助金	1,531千円
	合計				1,250千円		3,166千円	
財源内訳 / 割合	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他						ふるさと支援基金	1,531千円
	一般財源				1,250千円		3,166千円	
合計				1,250千円		3,166千円		1,531千円
人工数			0.20人	1,155千円	0.20人	1,160千円		
総経費				2,405千円		4,326千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	補助人数	成果		3人	2人	2人
				3人	2人	
				100%	100%	
2						
3						

成果	新規就農者の経営の安定に寄与することができた。				
R4年度に向けた課題及び改善策					
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 農林水産課 農林係 事務事業番号 128010112

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	28	農業の振興	1	農業経営体の育成・強化	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	1	農業生産者支援事業	12	人・農地プラン実質化推進支援事業			政策的
	令和2年度におけるトビイロウンカによる被害を受けた農業者が、次年度も水稲の生産を継続する意欲を持つことができるよう、次年度作付に要する種子購入経費を補助する。				対象	水稲を作付けした農家	
					手段	種子購入価格から県補助金を引いた残り全額を市が負担する。	
				意図	農家の生産意欲の低下を防止し、耕作放棄地の発生を防ぐ。		

事業期間	R2 年度	～	R2 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
支出内訳					水稲生産者次期作付支援事業補助金	10,006千円		
	合計					10,006千円		
	財源内訳 / 割合							
	国庫支出金							
	県支出金				1/3	3,227千円		
地方債								
その他								
一般財源						6,779千円		
合計						10,006千円		
人工数					0.15人	870千円		
人件費								
総経費						10,876千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	種子購入者	成果			663人 548人 82.7%	
2						
3						

成果	令和3年度産の水稲作付者の意欲の低下及び耕作放棄地の発生をを最小限に留めることができた。					
R4年度に向けた課題及び改善策	令和2年度限りの事業である。					
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性				
		成果	完了	コスト	R2	
特記事項						

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 農林水産課 農林係 事務事業番号 128010113

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)			
	4	産業・観光	28	農業の振興	1	農業経営体の育成・強化		
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
1	農業生産者支援事業	13	コロナに負けない農業経営実践加速化事業				政策的	
事業概要	市が認定したコロナ対応経営強化プランを実行するために必要な機械・施設の整備に必要な経費について支援する。				対象	「コロナ対応経営強化プラン」を作成し、市の認定を受けた中核経営体		
					手段	「コロナ対応経営強化プラン」の実行に必要な機械・施設等の経費について支援する。		
					意図	新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し、コロナ環境下においても安定した農業経営を確立する。		

事業期間	R2 年度	～	R2 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
支出内訳					コロナに負けない農業経営実践加速化事業補助金	416千円		
	合計					416千円		
	財源内訳 / 割合							
	国庫支出金							
	県支出金				10/10	416千円		
地方債								
その他								
一般財源								
合計						416千円		
人工数					0.02人	116千円		
人件費								
総経費						532千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	補助経営体数	成果			1経営体 1経営体 100%	
2						
3						

成果	コロナ環境下における安定した農業経営に寄与することができた。				
R4年度に向けた課題及び改善策	令和2年度限りの事業である。				
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性			
		成果	完了	コスト	R2
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 農林水産課 耕地係 事務事業番号 128020102

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)			
	4	産業・観光	28	農業の振興	2	農業の生産基盤の整備		
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
事業概要	1	農業基盤整備事業	2	県営農業競争力強化基盤整備事業(王喜東地区)			政策的	
	農地の大区画化及び農業水利施設の整備を実施し、農地集積・集約化を図ることを目的として、山陽小野田市埴生地区11haを含む140haの農用地について、下関王喜地区として区画整理を実施する。(負担金総額25,994千円)				対象	地元農家及び農地。		
					手段	県営事業として、王喜地区及び埴生地区の農地を対象に区画整理等を実施する。		
意図					農業基盤を整備することで、中心経営体への農地の集積を促進し、農業競争力を強化する。			

事業期間	H29以前	年度	～	R5	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)			
	県事業負担金	1,112千円	県事業負担金	4,285千円	県事業負担金	2,223千円	県事業負担金	4,889千円		
	(50,000*10/54*0.12)		(35,704*0.12)		(100,000*10/54*0.12)		区画整備			
			繰越明許	2,800千円	繰越明許		209,100*10/54*0.12 = 4,647千円			
			(23,333*0.12)		区画整備	1,534千円	暗渠排水			
					(49,000*10/54*0.12)		10,900*10/54*0.12 = 242千円			
合計	1,112千円		7,085千円		3,757千円		4,889千円			
財源内訳/割合	国庫支出金									
	県支出金	公共事業等債		公共事業等債		公共事業等債		公共事業等債		
	地方債	9,260×0.1×0.9	800千円	事業費*0.1*0.9	5,300千円	事業費*0.1*0.9	2,500千円	事業費*0.1*0.9	3,400千円	
	その他									
	一般財源		312千円		1,785千円		1,257千円		1,489千円	
合計		1,112千円		7,085千円		3,757千円		4,889千円		
人工数	0.05人	289千円	0.05人	289千円	0.05人	290千円				
総経費		1,401千円		7,374千円		4,047千円				

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	進捗率(事業費ベース)	成果	7.6	31.9	39.5	55.9
			7.6	31.9	39.5	
			100%	100%	100%	
2						
3						

成果	令和元年度より区画整備工事に着手し、令和5年に事業完了に向けて実施しているが事業費の内示割れが続き、工程遅れが生じている。				
R4年度に向けた課題及び改善策	令和3年度の事業費についても、要求額の予算措置できていない。国の補正予算がある場合には、市の当初負担金内で対応をしたいと考える。そのため、令和4年度以降についても、予算割れの可能性が考えられるため、事業計画変更し完了年度を変更する必要がある。				
目標達成度	B	R4年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 農林水産課 農林係 事務事業番号 128020104

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	28	農業の振興	2	農業の生産基盤の整備	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
1	農業基盤整備事業	4	農業振興地域整備計画事業				政策的
事業概要	「農業振興地域の整備に関する法律」に基づき、国及び県計画との整合性に留意し、都市的土地利用と農業的土地利用との調整を図りつつ、農業振興地域全体の見直しを図る。現計画の策定年度は平成22年度であり、概ね10年を経過しているため、また都市計画マスタープランに基づき用途地域の見直しを実施され、それとの整合性を図る必要もあるため、平成31年度より見直しに着手する。				対象	農業振興地域整備計画見直し	
					手段	基礎調査の実施、基礎調査結果に基づく農振計画基礎資料作成、基礎資料に基づく整備計画の策定	
					意図	農用地区域に指定された区域に対し、農業の振興に必要な施策を計画的、集中的に行う。	

事業期間	R1 年度	～	R2 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
支出内訳			消耗品費	100千円	消耗品費	千円		
			通信運搬費	606千円				
			計画策定委託料	7,414千円	計画策定委託料	4,895千円		
合計				8,120千円		4,895千円		
財源内訳 / 割合	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			1	8,120千円	1	4,895千円	
合計				8,120千円		4,895千円		
人工数			0.15人	866千円	0.02人	116千円		
総経費				8,986千円		5,011千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	農業振興地域整備計画見直し業務	活動		1件	1件 1件 100%	
2						
3						

成果	農業振興地域整備計画見直し業務における成果物の納入を受けた。				
R4年度に向けた課題及び改善策					
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性			
		成果	完了	コスト	R2
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 農林水産課 耕地係 事務事業番号 128020210

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	28	農業の振興	2	農業の生産基盤の整備	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	2	土地改良事業	10	ハザードマップため池の保全・避難対策事業			義務的
	令和元年7月1日に「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」が施行され、市町村は特定農業ため池の決壊に関する情報の伝達方法、避難施設、避難場所等を記載したハザードマップを作成・配布し、住人に周知させることが必要になり作成を行う。				対象	山陽小野田市内にある特定農業ため池(防止重点ため池)	
					手段	特定農業ため池のハザードマップを作成する。	
					意図	特定農業ため池のハザードマップを作成し配布する。	

事業期間	R1 年度	～	R3 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般	
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)		
支出内訳			農業水路等長寿命化・防災減災事業(ため池の保全・避難対策)補助金	2,555千円	農業水路等長寿命化・防災減災事業(ため池の保全・避難対策)補助金	2,970千円	農業水路等長寿命化・防災減災事業(ため池の保全・避難対策)補助金	3,498千円	
	合計			2,555千円		2,970千円		3,498千円	
	財源内訳/割合	国庫支出金		10/10	2,555千円	10/10	2,970千円	10/10	3,498千円
	県支出金								
	地方債 その他 一般財源 合計				2,555千円		2,970千円		3,498千円
人工数			0.15人	866千円	0.30人	1,740千円			
総経費				3,421千円		4,710千円			

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	ハザードマップ作成の進捗状況	活動		34	67	100
				34	67	
				100%	100%	
2	ハザードマップ作成個数	成果		32	29	33
				32	29	
				100%	100%	
3						

成果	当初予算が内示割れ起り実施件数は減少したが、業務は無事に完了し、梅雨時期前までに自治会に全箇所配布が実施できた。				
R4年度に向けた課題及び改善策	令和2年度に内示割れした金額については、令和3年度の内示で満額交付された。今年度の業務で防災重点ため池94箇所についてすべて完成する。令和4年度の梅雨時期前までにハザードマップ配布し無事に事業が完了する。				
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性			
	成果	完了	コスト	R3	
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 農林水産課 農林係 事務事業番号 129010102

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)			
	4	産業・観光	29	林業の振興	1	森林の適正管理		
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
1	林業振興事業	2	市有林整備事業				政策的	
事業概要	多面的機能を有する森林を、無秩序な伐採や開発、荒廃から守り、長期的な視点にたった計画的かつ適切な森林の取扱いを推進する。間伐については本数率にして30%以上、樹冠祖密度が間伐後5年で8/10以上となるように実施。間伐回数2~5回。 【補助率 標準補助単価*4/10*査定係数】				対象	市有林		
					手段	カルスト森林組合へ業務を委託する。		
					意図	水源かん養や国土の保全など森林の持つ多面的機能を持続的に発揮する。		

事業期間	H29以前	年度	～	R7以降	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般		
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)					
	委託料		2,999千円	委託料		2,995千円	委託料		2,995千円	委託料		3,000千円
	合計		2,999千円		2,995千円		2,995千円		2,995千円			3,000千円
財源内訳 / 割合	国庫支出金											
	県支出金		2,153千円		1,866千円			1,760千円				1,200千円
	地方債											
	その他											
	一般財源		846千円		1,129千円			1,235千円				1,800千円
合計		2,999千円		2,995千円		2,995千円		2,995千円			3,000千円	
人工数	人件費	0.50人	2,889千円	0.15人	866千円	0.22人	1,276千円					
総経費		5,888千円		3,861千円		4,271千円						

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	市有林施業面積	活動	5.00ha	5.00ha	5.00ha	5.00ha
			6.86ha	5.54ha	6.50ha	
			137%	111%	130%	
2						
3						

成果	搬出間伐、保育間伐、下刈またこれらに伴う作業道整備など事業を行い、一定の成果を得た。				
R4年度に向けた課題及び改善策	市有林の計画的で適切な維持管理が必要である。				
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 農林水産課 農林係 事務事業番号 129010103

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	29	林業の振興	1	森林の適正管理	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
1	林業振興事業	3	森林経営管理事業				政策的
事業概要	森林経営管理法に基づき、私有人工林における森林経営の意向調査を行い、森林所有者自らが経営管理を実行できない森林を市が経営管理の委託を受け、森林経営に適した森林は意欲と能力のある林業経営体に経営管理の再委託を行うとともに、自然的条件に照らして林業経営に適さない森林や再委託に至るまでの森林は市が間伐等の経営管理を実施する。 また、上記以外の森林環境譲与税の使途として施業に必要な路網の整備に係る経費が示されたことに伴い、林道及び作業道の修繕を行う。				対象	私有人工林	
					手段	森林経営管理法に基づく経営管理権集積・経営管理実施権配分	
					意図	林業の成長産業化・森林の適正管理	

事業期間	R1 年度	～	R7以降 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般	
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)		
支出内訳			準備調査委託料	3,784千円	修繕料	3,682千円	準備調査及び実施計画策定委託料	6,300千円	
					準備調査委託料	4,566千円	林道等維持管理業務	1,100千円	
	合計			3,784千円		8,248千円		7,400千円	
財源内訳 / 割合	国庫支出金								
	県支出金								
	地方債								
	その他			森林環境整備基金繰入金	3,784千円	森林整備基金繰入金	8,248千円	森林環境整備基金繰入金	7,400千円
	一般財源								
合計			3,784千円		8,248千円		7,400千円		
人工数 人件費			-		0.15人	870千円			
総経費			3,784千円		9,118千円				

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	森林経営管理権集積面積	成果				
2	意向調査件数	活動		1件 1件 100%	1件 1件 100%	1件
3						

成果	令和元年度に引き続き森林経営の意向調査の準備業務を行い基礎資料を作成した。また令和2年度からは民有林へのアクセスの整備として林道及び作業道の維持管理を行った。				
R4年度に向けた課題及び改善策	令和元年度から令和3年度までで意向調査の準備業務が完了するため、令和4年度からは森林経営管理事業に向けた集積計画策定など実施することとなる。				
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 農林水産課 農林係 事務事業番号 129010104

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	29	林業の振興	1	森林の適正管理	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	1	林業振興事業	4	森林環境譲与税事業			政策的
	パリ協定の枠組みの下において、温室効果ガス排出削減目標の達成、災害防止を図るための国からの譲与税を森林整備や森林整備の促進に関する財源を基金により積み立てする。				対象	森林環境譲与税	
					手段	基金の積み立て	
意図					森林整備や森林整備の促進に関する財源の確保		

事業期間	R1 年度	～	R7以降 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
支出内訳			森林環境整備基金積立金	3,901千円	森林環境整備基金積立金	8,394千円	森林環境整備基金積立金	8,500千円
	合計			3,901千円		8,394千円		8,500千円
財源内訳 / 割合	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			3,901千円		8,394千円		8,500千円
合計			3,901千円		8,394千円		8,500千円	
人工数			-		0.02人	116千円		
総経費			3,901千円		8,510千円			

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	積立件数	成果		1件	1件	1件
				1件	1件	
				100%	100%	
2						
3						

成果	基金の積み立てを行った。				
R4年度に向けた課題及び改善策	引き続き森林整備や森林整備の促進に関する財源として譲与税を積み立てる。				
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 観光振興係 事務事業番号 131010202

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	1	観光・交流資源の整備・充実	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	2	広域観光振興事業	2	山口県央連携都市圏連携事業(山口ゆめ回廊博覧会実行委員会予算分)	3-(2)		政策的
	県央連携都市圏域を構成する7市町全体を会場に見立てて2021年に開催する周遊型博覧会「山口ゆめ回廊博覧会」のプレ博覧会を開催し、圏域全体の広域観光連携の取組を進めた。具体的には、ウェブサイト、SNS、公式ガイドブック、シティドレッシングなどによる広域的広報の下、7市町を周遊する「リアル宝探し」、「JAFデジタルスタンプラリー」等のイベントを実施した。				対象	市内外住民・団体	
					手段	広域観光資源創出プロジェクトによる事業運営	
				意図	交流し人口の増加		

事業期間	H30 年度	～	R7以降 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
	普通旅費	20千円	消耗品費	10千円	山口県央連携都市圏域事業負担金	1,459千円	山口県央連携都市圏域事業負担金	1,459千円
	消耗品費	9千円	山口県央連携都市圏域事業負担金	775千円	普通旅費		普通旅費	100千円
	会場設営委託料	49千円			消耗品費	78千円	消耗品費	100千円
					手数料	6千円		
	合計	78千円		785千円		1,543千円		1,659千円
財源内訳/割合	国庫支出金		地方創生推進交付金	387千円	地方創生推進交付金	729千円	地方創生推進交付金	729千円
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源	78千円		398千円		814千円		930千円
合計	78千円		785千円		1,543千円		1,659千円	
人工数	0.15人	867千円	0.45人	1,591千円	0.35人	1,677千円		
総経費		945千円		2,376千円		3,220千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	周遊型博覧会開催	活動			1回(プレ) 1回(プレ) 100%	1回
2	地域通訳案内士育成人数	成果		40人 36人 90%	40人 54人 135%	40人
3	市の観光客数	成果	1,050,000人 1,072,438人 102.1%	1,100,000人 1,160,215人 105.5%	1,120,000人 739,034人 66%	1,150,000人

成果	新型コロナウイルス感染拡大により、市の観光客数は、大幅に減少することとなったが、「山口ゆめ回廊博覧会」のプレ博覧会の実施により、圏域内における広域的なPRを実施することができた。地域通訳案内士の育成については、目標を上回る結果となり、本市在住者についても2名が登録された。					
R4年度に向けた課題及び改善策						
目標達成度	C	R4年度に向けた方向性				
		成果	完了	コスト	R3	
特記事項						

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 観光振興係 事務事業番号 131010203

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	1	観光・交流資源の整備・充実	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	2	広域観光振興事業	3	山口県央連携都市圏連携事業(山口ゆめ回廊博覧会市主体事業)	1-(1) 3-(2)		政策的
	県央連携都市圏域を構成する7市町全体を会場に見立てて2021年に開催する周遊型博覧会「山口ゆめ回廊博覧会」の市主体事業として、ガラスアートフェス、食イベントを実施し、山口ゆめ散歩については、かるた及び竜王山ネイチャーツアーの体験プログラムを造成した。なお、竜王山ネイチャーツアーについては、新型コロナウイルス感染拡大により中止とした。				対象	市内外住民・団体	
					手 段	広域観光資源創出プロジェクトによる事業運営	
				意 図	交流人口の増加		

事業期間	R2 年度	～	R3 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
					報償費	8千円	山口県央連携都市	16,529千円
					山口県央連携都市	889千円	圏域事業負担金	
					圏域事業負担金			
合計						897千円		16,529千円
財源内訳 / 割合	国庫支出金				地方創生推進交付金	444千円	地方創生推進交付金	6,500千円
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源					453千円		10,029千円
合計						897千円		16,529千円
人工数					0.55人	2,484千円		
総経費						3,381千円		

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	市町主体事業の開催	活動			1回(プレ) 1回(プレ) 100%	1回
2	新たな体験プログラム造成及び実施	活動			6回(プレ) 2回(プレ) 33.3%	18回
3	市の観光客数	成果			1,120,000人 739,034人 66%	1,150,000人

成果	新型コロナウイルス感染拡大により、市の観光客数は、大幅に減少することとなったが、市主体事業として歴史や文化をテーマとしたプログラムや地場産食材を使用した食イベント等の通常とは異なるイベントを実施し、本市固有の地域資源をより深く発信することができた。					
R4年度に向けた課題及び改善策						
目標達成度	C	R4年度に向けた方向性				
		成果	完了	コスト	R3	
特記事項						

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 観光振興係 事務事業番号 131010204

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	1	観光・交流資源の整備・充実	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	2	広域観光振興事業	4	山口県央連携レノファ山口応援事業			政策的
	レノファ山口サンクスデーにおけるレノファ山口の試合会場や、7市町(本市、山口市、宇部市、萩市、防府市、美祢市、津和野町)の観光施設等でスタンプラリーを実施し、7市町の観光PRを行っている。				対象	レノファ山口ホームゲーム観戦者等	
					手段	スタンプラリーを集めた方に抽選で当たる特産品を提供する。	
意図					地元スポーツチームを通じて、圏域内の観光及び特産品をPRする。		

事業期間	H30 年度	～	R7以降 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
	報償金	14千円	報償金	15千円	報償金	15千円	報償金	15千円
	合計	14千円		15千円		15千円		15千円
財源内訳 / 割合	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源	14千円		15千円		15千円		15千円
合計	14千円		15千円		15千円		15千円	
人工数	0.10人		0.15人		0.10人			
人件費	578千円		665千円		403千円			
総経費	592千円		680千円		418千円			

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	サンクスデーでのブース出展回数	活動	1回	1回	1回	
			1回	1回	1回	
			100%	100%	100%	
2	ブースへの来場者数	成果	-	500人	500人	
			515人	400人	200人	
			-	80%	40%	
3						

成果	観戦者等に対して、レノファ山口の練習拠点であることに加え名産品を中心にPRを実施し、本市のシティセールスと併せて認知度向上を図ることができた。また、スタンプラリーの景品として提供した特産品のPRも行うことができた。				
R4年度に向けた課題及び改善策	PRしたい素材に合った時期に実施できるよう、早めにPRしたい素材に合わせて事前にレノファ山口や関係市町と調整する。				
目標達成度	C	R4年度に向けた方向性			
		成果	拡充	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 観光振興係 事務事業番号 131020202

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)			
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	2	情報発信・誘客体制の強化・充実		
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
	2	観光振興事業	2	観光プロモーション事業	3-(1)		政策的	
事業概要	平成30年度に実施した観光プロモーション調査事業を受けて、山口県内及び北九州都市圏に居住する30代から40代の女性をターゲット層に見据えた動画や観光パンフレットを令和元年度に作成した。動画は、市公式YouTubeで公開するとともに、令和2年度から始めたJR小倉駅のデジタルサイネージにも活用して情報発信している。また、新たに作成した観光パンフレット「スマイル・スポット」の配布のほか、令和2年度は、動画を県内民放テレビ局3社(山口放送、テレビ山口、山口朝日放送)で同時期に放映することで山口県内に向けて本市の認知度向上及び交流人口の増加を図った。				対象	市外県外の人		
					手段	観光プロモーション動画の配信、観光パンフレット「スマイル・スポット」の配布		
					意図	本市の認知度向上と誘客		

事業期間	R1 年度	～	R7以降 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
			観光プロモーション	9,450千円	広告料	1,898千円	印刷製本費	1,100千円
			業務委託料		手数料	99千円		
	合計			9,450千円		1,997千円		1,100千円
財源内訳 / 割合	国庫支出金		1/2	4,725千円	1/2	998千円		
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			4,725千円		999千円		1,100千円
合計			9,450千円		1,997千円		1,100千円	
人工数			0.40人		0.10人			
人件費			2,310千円		580千円			
総経費			11,760千円		2,577千円			

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	プロモーション(情報発信)	活動		実施 実施 100%	実施 実施 100%	
2	パンフレット制作 (日本語・外国語4種類)	活動		3万部 3万部 100%		2万部(日本語)
3	プロモーション動画の制作	活動		制作完了 制作完了 100%		

成果	新型コロナウイルス感染症の収束の目途が経たない状況下では、遠方からの来訪を促す観光プロモーションは行うべきではないと考え、発信エリアを県内に限定し、県内民放テレビ局3社(山口放送、テレビ山口、山口朝日放送)で同時期に放映することにより、広く視聴者の目に留めることができ、プロモーションの効果を得ることができた。					
R4年度に向けた課題及び改善策	令和3年度に観光パンフレット「スマイル・スポット」日本語版を増刷した。山口県内及び北九州都市圏に居住する30代～40代の女性の目に触れる機会を増やすために、高速道路サービスエリアや旅行会社等へ観光パンフレットの設置を検討する。					
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性				
		成果	現状維持	コスト	縮小	
特記事項						

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 観光振興係 事務事業番号 131020302

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	2	情報発信・誘客体制の強化・充実	
	実施計画名		事務事業名		重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
3	観光推進組織支援事業	2	観光交流促進事業				政策的
事業概要	山陽小野田観光協会の情報発信経費(保守及び通信運搬費)と県外PR活動について補助金を交付し、観光協会ホームページやSNS(フェイスブック、インスタグラム)での観光情報の発信や、県外イベントや旅行会社への売り込みに参加することで、本市の観光資源の認知度向上を図り、交流人口を増加させる。また、山陽小野田観光協会では、令和2年度は、新たに山口県住みます芸人「どさけん」さんを活用した情報発信を実施した。				対象	山陽小野田観光協会	
					手段	事業活動に対する補助金交付	
					意図	交流人口の増大による観光振興	

事業期間	H29以前	年度	～	R7以降	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)			
	山陽小野田	357千円	山陽小野田	219千円	山陽小野田	307千円	山陽小野田	357千円		
	観光協会補助金		観光協会補助金		観光協会補助金		観光協会補助金			
合計		357千円		219千円		307千円		357千円		
財源内訳/割合	国庫支出金									
	県支出金									
	地方債									
	その他									
	一般財源		357千円		219千円		307千円		357千円	
合計		357千円		219千円		307千円		357千円		
人工数	0.15人	867千円	0.15人	866千円	0.05人	290千円				
総経費		1,224千円		1,085千円		597千円				

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	市観光協会ホームページ、SNSのビュー数	成果	80,000ビュー	80,000ビュー	80,000ビュー	85,000ビュー
			75,340ビュー	121,950ビュー	160,199ビュー	
			94.2%	152.4%	200.2%	
2	市の観光客数	成果	10,500,000人	1,100,000人	1,120,000人	1,150,000人
			1,072,438人	1,160,215人	739,034人	
			102.1%	105.5%	66%	
3						

成果	観光協会のホームページやフェイスブックを管理運営し、タイムリーな情報発信を行うことができた。また、新たに山口県住みます芸人「どさけん」さんによる情報発信を実施し、ツールを増やすことで、幅広くPRを行うことができた。				
R4年度に向けた課題及び改善策	旅行の情報収集媒体については、時代の流れとともに変化が生じるため、そういった動向を把握しながら、限られた予算の中で効果的な観光PRを行う必要がある。今後は、ホームページ及びSNSを活用した情報発信を強化していく。				
目標達成度	B	R4年度に向けた方向性			
		成果	拡充	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 観光振興係 事務事業番号 131020303

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	2	情報発信・誘客体制の強化・充実	
	実施計画名		事務事業名		重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
事業概要	3	観光推進組織支援事業	3	観光パンフレット等作成事業			政策的
	山陽小野田観光協会へ補助金を交付し、観光マップ「ええね山陽小野田市」を改訂・増刷(毎年1万部)し、市内外に設置することで観光誘客を図る。また、手さげ袋やノベルティグッズを作成し、イベント参加者に対し配布することで、本市の観光資源の認知度向上を図り、交流人口を増加させる。				対象	山陽小野田観光協会	
					手段	事業活動に対する補助金交付	
意図					交流人口の増大による観光振興		

事業期間	H29以前	年度	～	R7以降	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)			
	山陽小野田	1,000千円	山陽小野田	840千円	山陽小野田	495千円	山陽小野田	1,000千円		
	観光協会補助金		観光協会補助金		観光協会補助金		観光協会補助金			
	合計	1,000千円		840千円		495千円		1,000千円		
財源内訳/割合	国庫支出金									
	県支出金									
	地方債									
	その他	ふるさと支援基金	1,000千円	ふるさと支援基金	840千円	ふるさと支援基金	495千円	ふるさと支援基金	1,000千円	
	一般財源									
合計		1,000千円		840千円		495千円		1,000千円		
人工数	0.10人	578千円	0.10人	578千円	0.05人	290千円				
総経費		1,578千円		1,418千円		785千円				

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	山陽小野田観光協会ホームページ、SNSのビュー数	成果	80,000ビュー	80,000ビュー	80,000ビュー	85,000ビュー
			75,340ビュー	121,950ビュー	160,199ビュー	
			94.2%	152.4%	200.2%	
2	市の観光客数	成果	1,050,000人	1,100,000人	1,120,000人	1,150,000人
			1,072,438人	1,160,215人	739,034人	
			102.1%	105.5%	66%	
3						

成果	今年度は、観光パンフレット「ええね山陽小野田市」を1万部増刷し、コロナ禍であることから県内の山口宇部空港やJR新山口駅に設置する等により本市の観光PRを行った。				
R4年度に向けた課題及び改善策	観光マップは、県内外でのPRの際に必要な情報発信ツールであり、年間約1万部を消費しているため、増刷作業は必須である。また、ノベルティグッズについても、PR場所やターゲットに応じ、本市の特色を生かした様々なツール(ボールペン、ポリラップ、手提げ袋、ティッシュ、ゴルフボールなど)を準備する必要がある、欠かすことができないものである。				
目標達成度	B	R4年度に向けた方向性			
		成果	拡充	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 観光振興係 事務事業番号 131020304

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	2	情報発信・誘客体制の強化・充実	
	実施計画名		事務事業名		重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
事業概要	3	観光推進組織支援事業	4	観光ボランティアガイド活動支援事業		交流	政策的
	観光客等へのホスピタリティ向上を目的として、観光ガイド団体が実施する事業(ガイド育成事業・ガイド派遣事業等)に山陽小野田観光協会が補助金を交付することにより、同会を通じて活動を支援する。				対象	山陽小野田観光協会	
					手段	事業支援に対する補助金交付	
意図					観光客へのホスピタリティの向上		

事業期間	H29以前	年度	～	R7以降	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)			R1(決算額)			R2(決算額)		R3(予算額)	
	山陽小野田	28千円		山陽小野田	63千円		山陽小野田		山陽小野田	100千円
	観光協会補助金			観光協会補助金			観光協会補助金		観光協会補助金	
	合計	28千円		63千円						100千円
財源内訳/割合	国庫支出金									
	県支出金									
	地方債									
	その他									
	一般財源	28千円		63千円						100千円
合計	28千円		63千円						100千円	
人工数	0.05人		0.05人			0.05人				
人件費	289千円		289千円			114千円				
総経費	317千円		352千円							

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	観光ガイド 件数	活動	20回	25回	25回	25回
			23回	15回	0回	
			115%	60%	0%	
2						
3						

成果	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動実績がなかった。				
R4年度に向けた課題及び改善策	観光ガイド派遣事業の認知度はほぼ皆無のため、観光パンフレットや観光協会ホームページ等でのPR活動が必要不可欠である。また、観光ガイド自身のスキルアップ及び後進育成のための研修会については、ガイド自身が求めるものに留めるのではなく、観光客が望んでいるニーズに応えられる人材育成に繋がる仕組みを形成する必要がある。				
目標達成度	D	R4年度に向けた方向性			
		成果	拡充	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 観光振興係 事務事業番号 131020401

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)			
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	2	情報発信・誘客体制の強化・充実		
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング	事業区分
	4	観光振興推進体制強化事業	1	おもてなしサポーター育成事業		交流	政策的	
事業概要	ホスピタリティの向上を目的に、市内観光関係団体を対象に市の観光資源の知識、観光案内のノウハウを教授し、事業所を訪れた人に観光案内や情報を発信する。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況下ではあったが、コロナ対策を徹底した上で、研修会を実施した。				対象	市内観光関係事業所		
					手段	研修会を開催、観光情報を提供できるよう育成する		
					意図	交流人口の増加とおもてなしの向上による		

事業期間	H30 年度	～	R7以降 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
	講師謝礼	10千円		講師謝礼	10千円	講師謝礼	15千円	講師謝礼
消耗品費	76千円		消耗品費	82千円	消耗品費	72千円	消耗品費	80千円
合計	86千円		92千円		87千円		100千円	
財源内訳/割合	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源	86千円		92千円		87千円		100千円
	合計	86千円		92千円		87千円		100千円
人工数/人件費	0.10人	578千円	0.10人	578千円	0.05人	290千円		
総経費	664千円		670千円		377千円			

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	研修会開催	活動	2回	2回	2回	2回
			2回	2回	2回	
			100%	100%	100%	
2	研修会の受講者数	成果		20人	20人	20人
				18人	17人	
				90%	85%	
3	サポーター登録者数(通算)	成果	80人	100人	100人	100人
			21人	39人	54人	
			26.3%	39%	54%	

成果	新型コロナウイルス感染拡大の状況下ではあったが、コロナ対策を徹底した上で、研修会を実施した。参加した各事業者には、幟とパンフレットを設置し、観光案内や情報発信を積極的に行っており、着実に本市のホスピタリティを向上させている。				
R4年度に向けた課題及び改善策	現在、サポーターに対する研修会は、登録時に限り実施しているが、今後は、サポーターを対象すると研修会を定期的に行い、観光資源の知識や観光案内のノウハウを向上させていく必要がある。また、サポーターの活用方法について検討が必要である。				
目標達成度	B	R4年度に向けた方向性			
	成果	拡充	コスト	現状維持	
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 観光振興係 事務事業番号 131030101

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	3	地域ブランドの推進	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
1	山陽小野田名産品活用推進事業	1	山陽小野田名産品活用促進事業				政策的
事業概要	山陽小野田観光協会に補助金を交付し、同協会内に設置している山陽小野田名産品推進協議会を通じ、名産品フェアの開催や関西同郷会での広報宣伝活動、また新たな名産品の発掘や認定に取り組むことで、名産品の認知度向上及び販路拡大を目指している。				対象	山陽小野田観光協会	
					手段	事業活動に対する補助金交付	
					意図	名産品の認知度向上及び販路拡大	

事業期間	H29以前	年度	～	R7以降	年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
	H30(決算額)			R1(決算額)			R2(決算額)		R3(予算額)	
支出内訳	山陽小野田	151千円		山陽小野田	151千円		山陽小野田	151千円	山陽小野田	151千円
	観光協会補助金			観光協会補助金			観光協会補助金		観光協会補助金	
	合計		151千円		151千円			151千円		
財源内訳 / 割合	国庫支出金									
	県支出金									
	地方債								100/100	151千円
	その他									
	一般財源		151千円		151千円		151千円			
合計		151千円		151千円		151千円				151千円
人工数	0.20人	1,156千円		0.15人	665千円		0.25人	1,097千円		
総経費		1,307千円		816千円			1,248千円			

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	名産品フェアの実施回数	活動	1回	1回	1回	1回
			1回	1回	1回	
			100%	100%	100%	
2	山陽小野田名産品認定数	成果	40品	40品目	40品目	40品
			36品	36品目	35品目	
			90%	90%	87.5%	
3						

成果	名産品フェア(会場:おのだサンパーク)では、参加事業者10社による販売(3日間:約240万円売上)、関西山口県同協会(コロナ禍であるため、名産品のみ提供)では、2社による提供を行い、名産品のPRを効果的に行うことができた。				
R4年度に向けた課題及び改善策	3年前の認定以降、新たな名産品が生まれていないため、認定によるメリットを打ち出していく必要があると考えており、山陽小野田観光協会のホームページの改修により公開写真や紹介文章を見直すことで、顧客に興味関心を持ってもらえる魅力あるものとし、積極的に情報発信を行っていく。				
目標達成度	B	R4年度に向けた方向性			
		成果	拡充	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) 農林水産課 農林係 事務事業番号 131030203

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	3	地域ブランドの推進	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	2	農産物ブランド化推進事業	3	圏域内道の駅等連携農林水産物販路拡大プロジェクト			政策的
	圏域内にある道の駅等の施設に連携市町の特産品コーナーを設置するとともに各施設で行うイベントの情報提供や広報誌等の配布により、圏内農林水産物の積極的なPR活動を展開し、圏域内での新たな販路の確保・拡大に取り組む。				対象	消費者	
					手段	農村魅力創出プロジェクトによる事業運営	
					意図	販路の確保・拡大	

事業期間	H30 年度	～	R7以降 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般	
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)		
			負担金	15千円	印刷製本費	25千円	負担金	50千円	
	合計			15千円		25千円		50千円	
	財源内訳 / 割合	国庫支出金							
		県支出金							
地方債									
その他									
一般財源			15千円		25千円		50千円		
合計			15千円		25千円		50千円		
人工数	0.10人		0.10人	578千円	0.01人	58千円			
人件費	578千円		578千円		58千円				
総経費			593千円		83千円				

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	イベント開催件数	活動	1件	-	-	-
			1件	-	-	-
			100%	-	-	-
2	パンフレット作成	成果			1件	
					1件	
					100%	
3						

成果	圏域内の特産品のPRのため、「山口ゆめ回廊うまいもんブック」を作成した。				
R4年度に向けた課題及び改善策					
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性			
		成果	現状維持	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 定住促進係 事務事業番号 131040102

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	4	シティセールスの推進	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
1	シティセールス推進事業	2	シティセールスPR強化事業	3-(1)			政策的
事業概要	第二次総合計画において、「スマイルシティ山陽小野田」をキャッチフレーズとして打ち出したことに伴い、新たなCI戦略を進める上で、平成30年度にキャッチフレーズをモチーフにしたロゴマークを制作するとともに、JR厚狭駅新幹線口にて市のPRポスターを掲示した。令和2年度からは、JR小倉駅のデジタルサイネージを活用して市の魅力を発信している。				対象	市内・市外の人	
					手段	JR厚狭駅新幹線口での市のPRポスターの掲示、JR小倉駅でのデジタルサイネージの放映	
					意図	交流人口の増加及び移住・定住促進	

事業期間	H30 年度	～	R7以降 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
	広告料	194千円	広告料	389千円	広告料	983千円	広告料	983千円
	デザイン委託料	908千円	商標登録委託料	210千円				
	商標登録委託料	205千円						
	合計	1,307千円		599千円		983千円		983千円
財源内訳/割合	国庫支出金	地方創生推進交付金	642千円	地方創生推進交付金	194千円	地方創生推進交付金	491千円	
	県支出金							
	地方債							
	その他						ふるさと支援基金繰入金	983千円
	一般財源	665千円		405千円		492千円		
合計	1,307千円		599千円		983千円		983千円	
人工数	0.50人	2,889千円	0.15人	866千円	0.10人	580千円		
総経費	4,196千円		1,465千円		1,563千円			

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	市公式ホームページ、SNSの閲覧数	活動	1,030,000件/年	1,060,000件/年	1,115,000件/年	1,200,000件/年
			999,159件/年	1,173,979件/年	1,799,406件/年	
			97.0%	110.7%	161.4%	
2						
3						

成果	ロゴマークの作成により、本市のキャッチフレーズ「スマイルシティ山陽小野田」の周知やイメージアップにつながっており、ロゴマークやイメージカラーを活用した取組を各課が市民に向けて積極的に行った。加えて、JR厚狭駅構内のポスター掲示やJR小倉駅のデジタルサイネージ放映によって、市外の方にも山陽小野田市をPRすることができている。				
R4年度に向けた課題及び改善策	本市の認知度を更に向上させるため、引き続きJR厚狭駅へのポスター掲示と、令和2年度から取り組むJR小倉駅へのデジタルサイネージ放映を行う。合わせて、他のPR方法も検討し、認知度の向上や交流人口の増加を図る。				
目標達成度	A	R4年度に向けた方向性			
		成果	拡充	コスト	拡大
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 定住促進係 事務事業番号 131040104

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	4	シティセールスの推進	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	1	シティセールス推進事業	4	ハロウィンイベント実施事業	3-(1)	交流	政策的
	市のイメージカラー「オレンジ」との親和性が高く、若者に人気のハロウィンに着目し、10月の1か月間、「スマイル・オレンジフェア」を実施する。参加事業所によるサービス提供やディスプレイコンテストの開催、関連イベント等の連携を図ることで、市の魅力を大々的にPRするとともに、同イベントに関わった人に本市に対する誇りや愛着を持っていただくきっかけとし、市内全域における交流人口の増加を狙う。また、10月下旬に、映像等を効果的に活用した作品の上映やステージショー等の参加型イベント「スマイル・ハロウィンパーティー」を開催する予定であったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。				対象	市内・市外の人	
					手段	参加型イベントの開催	
				意図	市の認知度の向上、交流人口の増加、誇りや愛着、共感を得る		

事業期間	R1 年度	～	R3 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般	
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)		
支出内訳			スタジオ・スマイル補助金	10,000千円	スタジオ・スマイル補助金	千円	スタジオ・スマイル補助金	10,000千円	
	合計			10,000千円		千円		10,000千円	
	財源内訳/割合	国庫支出金		地方創生推進交付金	5,000千円	地方創生推進交付金	千円	地方創生推進交付金	5,000千円
		県支出金							
		地方債							
その他									
一般財源				5,000千円		千円		5,000千円	
合計				10,000千円		千円		10,000千円	
人工数			1.35人	7,797千円	0.70人	3,883千円			
総経費				17,797千円		3,883千円			

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	映像等を効果的に活用したプロモーション作品の上映を制作するために取材する地域資源(取材箇所数)	活動		15箇所	20箇所	20箇所
				15箇所	0箇所	
				100%	0%	
2	イベントにスタッフ等として参画する市民等の人数(実人数)	成果		50人	70人	100人
				136人	0人	
				272%	0%	
3	スマイル・ハロウィンパーティーへの集客	成果		10,000人	12,000人	26,000人
				26,000人	0人	
				2.6	0	

成果	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の「スマイルハロウィン・パーティー」は中止となったが、10月の1か月間、「スマイル・オレンジフェア」を開催した。ディスプレイコンテストの参加事業者は52事業者、投票総数613票であった。また、新たに取り組んだフォトコンテストや、オレンジの修景などによって、市のイメージカラー「オレンジ」への関心を高めた。				
R4年度に向けた課題及び改善策	新型コロナウイルス感染症による影響が継続すると想定した上で、「スマイルハロウィンさんようおのだ」をどのように展開していくことができるのか、どのようなアイデアが考えられるのかなどについて、実行委員会を中心として意見をとりまとめ、イベントを実施していく。				
目標達成度	D	R4年度に向けた方向性			
	成果	拡充	コスト	現状維持	
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 定住促進係 事務事業番号 131040104

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	4	シティセールスの推進	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
事業概要	1	シティセールス推進事業	4	ハロウィンイベント実施事業	3-(1)	交流	政策的
	市のイメージカラー「オレンジ」との親和性が高く、若者に人気のハロウィンに着目し、10月の1か月間、「スマイル・オレンジフェア」を実施する。参加事業所によるサービス提供やディスプレイコンテストの開催、関連イベント等の連携を図ることで、市の魅力を大々的にPRするとともに、同イベントに関わった人に本市に対する誇りや愛着を持っていただくきっかけとし、市内全域における交流人口の増加を狙う。また、10月下旬に、映像等を効果的に活用した作品の上映やステージショー等の参加型イベント「スマイル・ハロウィンパーティー」を開催する予定であったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。				対象	市内・市外の人	
					手段	参加型イベントの開催	
					意図	市の認知度の向上、交流人口の増加、誇りや愛着、共感を得る	

事業期間	R1 年度	～	R3 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
支出内訳			スタジオ・スマイル補助金	10,000千円	スタジオ・スマイル補助金		スタジオ・スマイル補助金	10,000千円
	合計				10,000千円			10,000千円
財源内訳/割合	国庫支出金		地方創生推進交付金	5,000千円	地方創生推進交付金		地方創生推進交付金	5,000千円
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源				5,000千円			5,000千円
合計				10,000千円			10,000千円	
人工数 人件費			1.35人	7,797千円	0.70人	3,883千円		
総経費				17,797千円				

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	映像等を効果的に活用したプロモーション作品の上映を制作するために取材する地域資源(取材箇所数)	活動		15箇所	20箇所	20箇所
				15箇所	0箇所	
				100%	0%	
2	イベントにスタッフ等として参画する市民等の人数(実人数)	成果		50人	70人	100人
				136人	0人	
				272%	0%	
3	スマイル・ハロウィンパーティーへの集客	成果		10,000人	12,000人	26,000人
				26,000人	0人	
				2.6	0	

成果	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の「スマイルハロウィン・パーティー」は中止となったが、10月の1か月間、「スマイル・オレンジフェア」を開催した。ディスプレイコンテストの参加事業者は52事業者、投票総数613票であった。また、新たに取り組んだフォトコンテストや、オレンジの修景などによって、市のイメージカラー「オレンジ」への関心を高めた。				
R4年度に向けた課題及び改善策	新型コロナウイルス感染症による影響が継続すると想定した上で、「スマイルハロウィンさんようおのだ」をどのように展開していくことができるのか、どのようなアイデアが考えられるのかなどについて、実行委員会を中心として意見をとりまとめ、イベントを実施していく。				
目標達成度	D	R4年度に向けた方向性			
		成果	拡充	コスト	現状維持
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 定住促進係 事務事業番号 131040103

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	4	シティセールスの推進	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
1	シティセールス推進事業	3	若者会議推進事業	3-(1)			政策的
事業概要	「活力と笑顔あふれるまち～スマイルシティ山陽小野田～」の実現に向けて、シティセールスを推進していく上で、若者の視点による本市の魅力発信に係る意見を聴き、諸施策に反映させるため、若者会議を設置する。初年度(令和元年度)はスポーツをテーマに会議を行った。令和2年度の会議は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により会議を中止したため、令和3年度は、文化をテーマに、ガラスやかるた等をはじめとする本市の文化活動の推進について、意見交換や議論を進める。				対象	市内在住又は市内の事業所、学校に在籍している方	
					手段	若者の意見を聴く	
					意図	文化・スポーツの諸施策に反映させる	

事業期間	R1 年度	～	R3 年度	予算種別	継続	臨時	会計種別	一般
	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
支出内訳			報償金	40千円			報償金	100千円
			保険料	8千円			保険料	30千円
	合計			48千円				130千円
財源内訳 / 割合	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			48千円				130千円
合計			48千円				130千円	
人工数 人件費			0.35人	2,021千円	0.00人	千円		
総経費				2,069千円				

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	会議の開催数	活動		5回 4回 80%	5回 0回 0%	5回
2						
3						

成果	令和2年度は、18歳以上30歳未満のまちづくりに意欲のある若者を集め、「文化」をテーマに意見交換や議論を進める予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった。				
R4年度に向けた課題及び改善策	本事業は2年間の事業としているため、令和3年度をもって終了する。				
目標達成度	D	R4年度に向けた方向性			
		成果	完了	コスト	R3
特記事項					

R2年度 事務事業評価シート

課・局・室・所(係) シティセールス課 定住促進係 事務事業番号 131040107

施策体系	大項目(章)		中項目(基本施策)		小項目(基本事業)		
	4	産業・観光	31	観光・交流の振興	4	シティセールスの推進	
	実施計画名		事務事業名			重点プロジェクト	スマイルエイジング
1	シティセールス推進事業	7	わがまちの魅力発信事業	3-1			政策的
事業概要	レノファ山口をはじめとするプロスポーツの試合等の場を活用し、市の魅力のPRを実施することで、市の認知度の向上や交流人口の増加に加え、サポート寄附金の周知を図る。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、マツダスタジアム(広島市)でのわがまち魅力発信隊への参加を見送ったが、維新みらいふスタジアム(山口市)でのレノファ山口ホームゲーム・サンクスデーのブース設置を行った。				対象	市内・市外の人	
					手段	市のPRの実施	
					意図	市の認知度の向上、交流人口の増加、サポート寄附金の確保	

事業期間	R2 年度	～	R7以降 年度	予算種別	新規	臨時	会計種別	一般
支出内訳	H30(決算額)		R1(決算額)		R2(決算額)		R3(予算額)	
					普通旅費		普通旅費	87千円
					消耗品費		消耗品費	260千円
					通行料		通行料	10千円
					イベント出展負担金		イベント出展負担金	368千円
	合計							
財源内訳 / 割合	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他						ふるさと支援基金繰入金	725千円
	一般財源							
合計								725千円
人工数	人件費				0.10人	580千円		
総経費								

※上段:目標 中段:実績 下段:達成率

活動指標又は成果指標			H30	R1	R2	R3
1	PRの実施	活動			3回 2回 66.7%	3回
2	ブースへの来場者数	成果			4,000人 2,000人 50%	4,000人
3						

成果	新型コロナウイルス感染症の影響から、マツダスタジアム(広島市)でのわがまち魅力発信隊への参加を見送ったが、維新みらいふスタジアム(山口市)でのレノファ山口ホームゲーム(R2. 9. 27開催:ハロウィンイベントPR)・サンクスデー(R2. 12. 2開催:サポート寄附PR)のブース設置を行い、コロナ禍で入場者制限があったが、多くの来場者で賑わった。					
R4年度に向けた課題及び改善策	プロスポーツの観戦という多くの人が集まる機会を活用することによって、市の魅力を市内外にPRすることができる。令和4年度以降もブース出展し、スポーツファンというターゲットを絞って市の認知度の向上、交流人口の増加、サポート寄附金の確保を図る。					
目標達成度	C	R4年度に向けた方向性				
		成果	拡充	コスト	拡大	
特記事項	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響からイベントの開催が不透明であったため、全額減額補正した。そのため、シティセールス推進事業の予算内で実施している。					